

最新事情

高校編③

体験型学習とビジネスマナー教育を通して
生徒の未来を大きく広げる

知徳高等学校

(静岡県駿東郡長泉町)

知徳高等学校普通科未来探究コースと観光文化コースは、インターンシップや職場見学、ホテル実習などの体験型学習を軸にしたカリキュラムが特徴だ。仕事の現場に赴いて実践的に学ぶことで、社会人としての自覚や即戦力として活躍できる力を育成するのが狙いだ。二つのコースでは、秘書検定とサービス接客検定を活用してビジネスマナー教育を行っている。その取り組みを伺った。

ビジネスマナーを身に付け 日々の学びの深度を深める

知徳高等学校は、昭和9（1934）年に女子職業学校「三島実科高等女学校」として創立し、令和5年に開校から90年目を迎えた。何度かの改編を経て、現在は普通科、情報ビジネス科、福祉科、創造デザイン科の4学科9コース、男女合わせて約1000人が通っている。

「社会に貢献し、期待され、愛される人間の育成」を教育目標に掲げる同校は、先駆的な学科設置でも知られている。昭和61（1986）年には全国の高校に先駆けて、介護福祉士国家資格が取得できる福祉コースを設置、平成30年にはカリキュラムの中心に「探究学習」を据えた「未来探究コース」を普通科に創設した。渡邊紀之校長の下、自律心に富み、自他を尊重しながら他者と協働できる生徒の育成を目指して教育活動を

行っている。

普通科は2年進学時に自分の希望する将来に合わせて四つのコースから一つを選択する。その中の「未来探究コース」と「観光文化コース」は、体験型授業を多く盛り込んだカリキュラムが特徴で、就職を見据えて日々の学習に取り組み生徒が多く在籍している。

未来探究コースは、インターンシップや職場見学などのさまざまな体験を通して、自己の可能性を探究し、自分の道を切り開く力を育成することを旨とする。観光文化コースは、観光・ホテル業界の即戦力として活躍できる人材育成を目的としたホテル実習や、結婚式場で新郎新婦・参列者として挙式体験するブライダル講習などの特色ある授業が人気だ。

こうした体験型学習の学びを深めるためには、現場に赴く前に敬語やビジネスマナーといった社会で働くための基礎知識を理解しておくことが望ましい。そこで活用しているのが秘書検定とサービス接客検定だ。未来探究コースでは2年生の「ビジネスコミュニケーション」と3年生の「ビジネス実務」で、観光文化コースでは2・3年生の「サービスマナー」の授業で、ビジネスマナーや社会人に必要な知識や振る舞いを検定問題等から学んでいる。

大人の常識を 高校生のうちにも学ぶ

ビジネスマナーの指導を中心的に行う堅田淳子



知徳高等学校

堅田先生と小松先生が手作りした名刺入れを使って名刺交換の練習



堅田淳子先生。「母が茶道の師範だったことや、小学生からバスケットボールチームに所属していたこともあり、子供の頃から対人スキルの大切さを痛感してきました」と話す



普通科観光文化コース担任の小松垂珠沙先生。サービス接遇検定1級、秘書検定2級に合格。チアリーダー部の顧問を務める



情報ビジネス科ビジネスコース担任の増田茜先生。サービス接遇検定準1級、秘書検定2級に合格。小松先生と共にチアリーダー部を指導している

先生は、同校で50年以上に渡って教鞭を執り、多くの生徒を育ててきた。「常に生徒のことを一番に考えて教育活動を行ってききました。本気で向き合うので大変なこともありましたが、それでも教え子たちは皆かわいい。だからこそ、今までやってこられたのだと思っています。」

同校にビジネス系検定の学習を取り入れたのも堅田先生だ。新任時にいきなり3年生のクラス担任になり、進路指導の苦勞を味わっていたとき秘書検定に

出合った。社会人としての自覚や振る舞いを身に付けさせるのに最適だと感じたと言う。生徒に教えるためにはまず自分からと秘書検定とサービス接遇検定の1級に挑戦して合格。その後、面接試験の審査員も務め、生徒の指導に活かしてきた。

平成7年には部活動として「秘書部」を立ち上げ、授業外で検定を学ぶ場を創設。平成12年に観光文化コースが新設されると、授業に秘書検定とサービス接遇検定を取り入れ、続いて創設された未来探究コースでも取り組んできた。

「検定の学習は、目的がはっきりしていて成功体験が得られるため、高校生の指導に適しています」と堅田先生。自分の頑張りに対してきちんと結果が付いてくるため、達成感やモチベーションの向上につながるという。

検定を活用した授業では、座学を中心にお辞儀や名刺交換、箸の使い方などの実技を差し挟む。座学では堅田先生が作成したオリジナルの教材を使って学習を進める。ビジネスマナー、サービス接遇の「原則」だけをピックアップして整理し、まとめたものだ。

「過去問題をやみくもに解くよりも、まずは原則を覚えることが大切です。実技もそうですが、両手対応や目線、姿勢などの判断基準をきちんと押さえる。すると、問題のバリエーションに惑わされることなく、正しい答えを導き出すことができます」(堅田先生)。

堅田先生と共に「ビジネスコミュニケーション」

の授業を担当する情報ビジネス科の増田茜先生は、特に3年生の面接練習の際に検定の成果を感じるそうだ。「お辞儀や動作一つ取っても、検定を学んだ生徒は完成度が非常に高い。間違えても『こうだったな』と自分自身で修正して立て直すこともできる。安定感がありますね」と話す。

観光文化コースの担任で堅田先生と「サービスマナー」の授業を行う小松垂珠沙先生は、自身の検定受験の経験を指導に活かしている。サービス接遇検定はこれまでの人生経験や実生活の延長で判断できる内容だったが、秘書検定は教員になじみのない知識や慣習が問われることも多く、なかなか難しかったと振り返る。

「私が気付いたことや疑問に感じた点は、きっと生徒も同じはず。他人事のように指導するのではなく、自分の体験を通して得たものを生徒に伝える、そんな教育活動をしていきたいと考えています。私自身、名刺交換などは大人になってから習い、最近ようやく慣れてきた。常識。こういった社会常識を高校生で学べることはとても幸せなことです。生徒には『大人になったらやるんだよ』と話しながら教えています。」

高校生活で培ったスキルで社会に羽ばたく

普通科観光文化コースの桐湖夏音きりかほなつねさんは令和4年にサービス接遇検定準1級と秘書検定3級に合格した。ホテルで働くことを目指して同コースに進んだ桐湖さん。言葉遣いやサービス

最新事情 54 知徳高等学校



令和5年度は、生徒が2人、サービス接遇検定準1級に合格。(左から) 観光文化コースの川畑碧月(みづき)さん、未来探究コースの足達しずなさん



観光文化コースの桐渕夏音さん。サービス接遇検定準1級の合格証を手に

情報ビジネス科ビジネスコースのある生徒は、令和4年にサービス接遇検定準1級と秘書検定2級に合格した。資格に挑戦することが大好きで、新しいことにチャレンジしたいと秘書部に入学したこの生徒は、両検定に取り組む中で、学ぶ楽しさを改めて実感。上位級を目指すようになった。堅田先生オリジナルの問題集を繰り返し解き、面接練習を積み重ねて試験に

桐渕さんは言う。「同じ謝罪の言葉でも『すみません』と『申し訳ございません』では、丁寧さが違います。言葉の選択肢が増えたことで、状況に合わせて使い分けられるようになりました。」卒業後はホテルに勤務する桐渕さん。入学時からの夢をかなえた。「面接練習で培ったお辞儀や立ち居振る舞いは、そのまま日々の業務に活かしていけそうです。社会に出る前に身に付けることができて本当によかったです」と笑顔で成果を話してくれた。

マインドを学びたいと検定に挑戦。授業での学習に加え、放課後に堅田先生の面接練習の特訓を受けて実力を磨いた。検定の学習を通して一番大きく変わったことは、言葉遣いの幅が広がったことだと

模擬授業は専門学校卒業生として行われたものであり、サービス業界を目指す後輩に向けて、新郎新婦と運営スタッフ双方の立場を体験してもらおうと企画された。まず座学で挙式や会場の種類、費用といった結婚式についての基礎知識を学んだ後、ウェディングプランナーの仕事を経験。著名人の結婚式をモチーフに、式のコネクトに合わせて音楽を選びBGMを制作した。その後、大教室に移動して会場を装飾。それぞれ異なる演出で執り行った。「ブライダルに

臨んだ。検定の学習で特に難しいと感じたのは問題文の読解。「問題文の読み込みが浅いと間違えてしまいます。文章を丁寧に読み登場人物やシチュエーションを想像することで正答率が上がりました」と振り返る。この生徒は、医療秘書・医療事務を目指し卒業後は専門学校へ進学する。「検定の学習を通して敬語の使い方に自信が付き、目上の人に対してもしっかり対応することができるようになりました。実習などで接客するお客さまへの対応や、周囲の人とのコミュニケーションに検定の学びを活かしていけそうです」と話してくれた。

取材当日は観光文化コース卒業生の岡田愛羽^{まなほ}さんが、専門学校の同級生らと共に模擬授業を行った。岡田さんは中学生の時からブライダル業界を志して同コースに進学。ブライダル系の専門学校に進み、卒業後は念願のウェディングプランナーとして働くことが決まっている。



模擬授業を進行する、卒業生の岡田愛羽さん。小松先生の同校での最初の教え子だ

フラワーシャワーで祝福される模擬結婚式の新郎新婦



ついて、動きながら楽しく学んでもらいたいと思いつきました。座学、挙式体験共に、楽しんでもらえてよかったです」と岡田さんは授業の成果を振り返る。高校での学びが今につながっていると話す岡田さん。秘書検定、サービス接遇検定は共に高校在学中に合格した。「高校では校外学習や検定の勉強を通して、マナーや人との接し方、きちんとした言葉遣いといった、対人スキルを学ぶことができたことが非常に得難い経験でした。専門学校卒業後は式当日の現場責任者として働きます。こうした対人スキルはブライダル業界で働くためには欠かせません。結婚式は多くのスタッフが力を合わせてつくり上げるもの。スタッフへの感謝を常に忘れずに、頼りがいのあるキャプテンとして、お客さまの晴れの舞台を支えていきたいと考えています」と力強く抱負を語ってくれた。